

# 乙 貞

第131号 通巻23巻 第4号

2003年11月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

Tel・Fax 077-585-4397

〒 524-0212

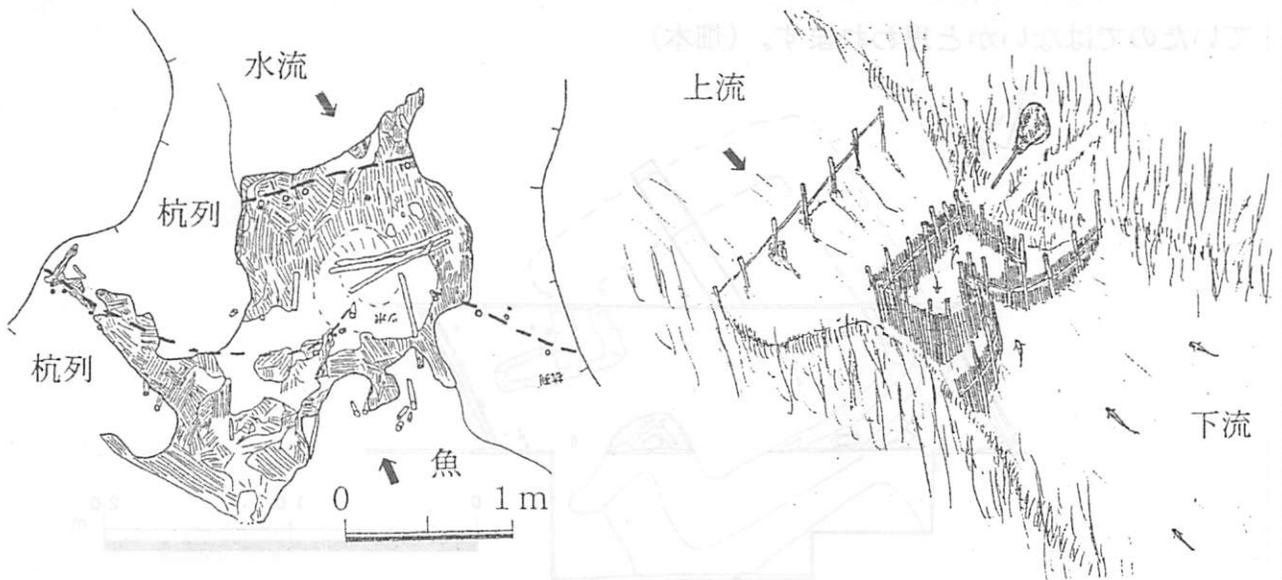
守山市服部町2250番地

## 1. 古高・経田遺跡の調査

前号でヤナではないかと報告した遺構は、その後の調査によってエリであることがわかりました。魚を誘導するために下流に向かってハの字状に打たれた杭列と、魚を閉じ込めるツボとの関係が明らかになり、エリと判断しました。古墳時代前期末の川底で発見されたエリは全国的にも珍しく、古代の生業を考える上で重要な資料です。

西側の壁に向かって4本、東側の壁に向かって10本の杭が打たれていて、魚を誘導する施設であったと考えられます。魚を捕獲するツボには、川底に何本かの木を置いて土台を作り、その上に植物の束<sup>たば</sup>を敷き、さらに3本の杭で押さえていました。ツボの上流には魚が逃げないように、6本の杭が川を横断するように打ち込まれていました。

エリは川幅が最も狭まった場所に設置されていて、地形を巧みに利用していることがわかります。川底には泥質の粘土が堆積しており、フナやコイ・ナマズなどを捕獲していたと推測されます。これらの魚は、琵琶湖周辺から内陸部にむかって水田開発が進むとともに、活動域を広げていったと考えられ、人間と魚とのつきあいを示す貴重な資料といえます。(森山)



▲ 古高・経田遺跡で検出されたエリ跡

▲ エリの復元図 (県教委 大沼芳幸氏作画)

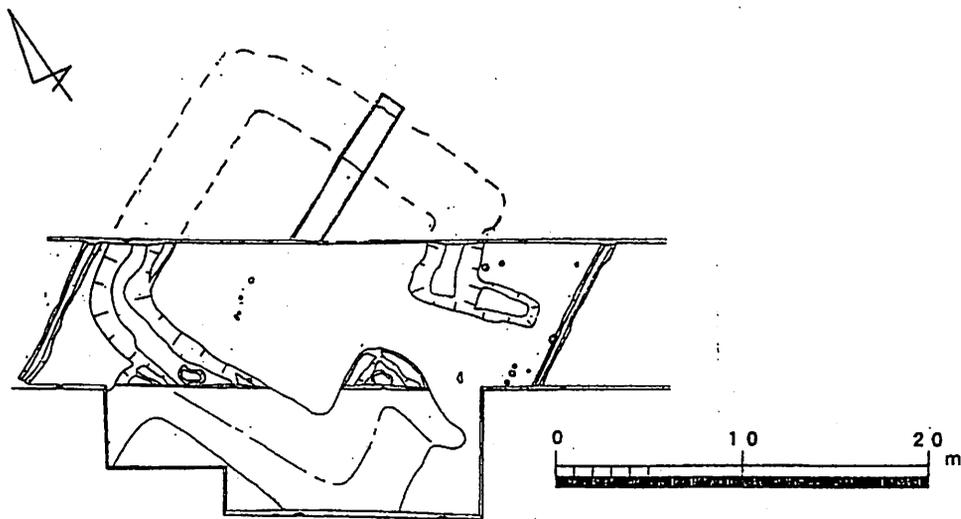
## 2. 焰魔堂遺跡の調査

焰魔堂遺跡の発掘調査は10月末で終了したことから、調査成果をまとめて報告します。検出した遺構は、竪穴住居1棟(SH-1)、方形周溝墓14基(SX-1~14)、前方後方型周溝墓(SX-15)、土壙墓3基(SK-1~3)、溝6条(SD-1~6)のほか、多数の土坑・柱穴を検出しました。

方形周溝墓の規模は一辺4~14mとかなり差があり、周溝の形態も溝を共有するものや溝の一端が途切れるものなどがみられました。周溝墓群は主軸の方位などから4ブロック(SX-1、SX-2~5、SX-6~10、SX-11~14)にわけることができると思われます。出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期(紀元2世紀後半~4世紀初頭)にかけて造営されたとみられます。前方後方周溝墓は全長19m、前方部幅7.2m、後方部長さ11.8m・幅12.6mを測ります。周溝は全周するものではなく、前方部前面の溝は掘られていませんでした。溝幅は約3m、深さ1~1.2mを測り、くびれ部から前方部にかけて浅くなっていました。前方部の溝から高杯が出土していて、古墳時代前期の遺構と推測されます。

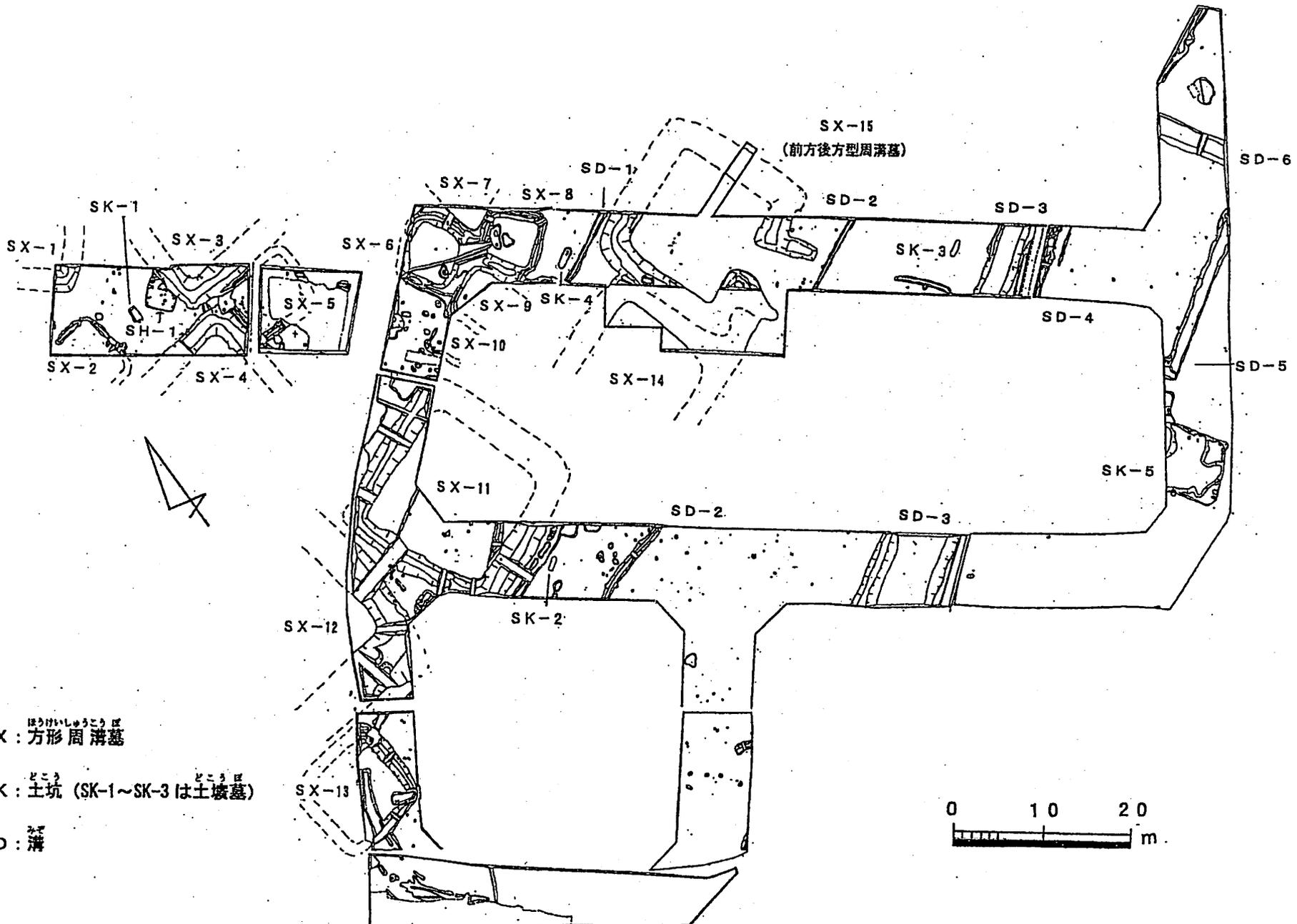
土壙SK-2は長さ156cm、幅59cm、SK-3は長さ204cm、幅56cmを測り、数cm~20cm掘削したところ、側板など組合せ式の木棺の痕跡が確認されました。SK-2からは瑪瑙製の勾玉1点、琥珀製の勾玉1点・聚玉4点がみつかったほか土壙底からは直径約5cmを測る鉄製の釧が出土しました。琥珀製の玉は、草津市の北谷古墳群や栗東市の下味第2号墳・和田古墳群、野洲町の宮山古墳などで聚玉や小玉が出土していますが、勾玉は安土町の安土瓢箪山古墳について県下2例目の発見となります。土壙墓は出土した玉の形式からみて、古墳時代中期前半と推定されます。

前方後方型周溝墓の南北辺に平行して2条の溝が検出されました。南側で検出されたSD-2は墓群の南側を画するようのびており、墓域を区画する溝と考えられます。北側のSD-1は前方後方周溝墓と方形周溝墓群を区画しており、墓域の内外を区画する溝が掘られていたのではないかと思います。(畑本)



▲ 前方後方型周溝墓 (SX-15)

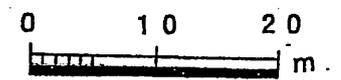
▲ 焰魔堂遺跡全体図



SX: 方形周溝墓

SK: 土坑 (SK-1~SK-3は土塚)

SD: 溝



### 3. 欲賀遺跡の調査

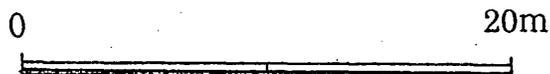
欲賀土地区画整理事業に伴う発掘調査は、10月末でB・C区の約900㎡について調査を終了しました。ここでは、中世（鎌倉～室町時代）の屋敷跡が検出され、多量の遺物が出土しました。平成4～8年に実施した、ほ場整備事業に伴う欲賀遺跡群（欲賀遺跡・欲賀城遺跡・欲賀南遺跡）の調査では、中世の大規模な集落跡が発見されています。この調査成果によれば、13世紀に小規模な集落が成立し、14～15世紀にかけて溝で整然と区画された屋敷地群が形成されていくと考えられます。中には幅5～8mもある堀を巡らせた領主の屋敷跡も見つかり、多量に出土した遺物とともに近江の中世集落遺跡の中で注目されている遺跡の一つとなっています。今回の調査で、集落がさらに東側に広がっていることがわかり、今後調査を予定している

大蔵地区の発掘によって、さらに集落の内容が明らかになるものと期待されます。

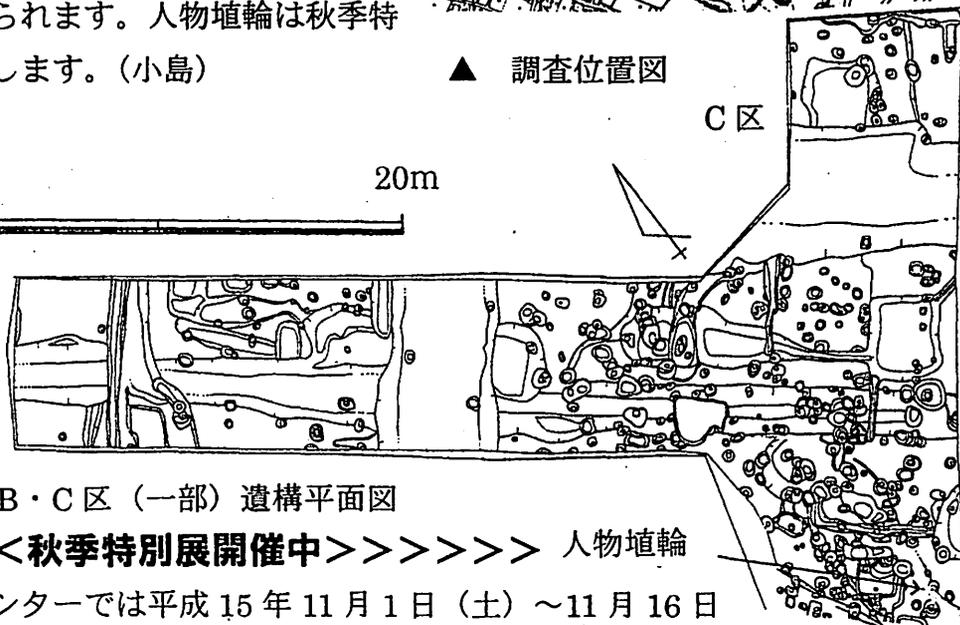
ところで、今回の調査では思いがけず人物埴輪が出土しました。埴輪はバラバラに割れた状態で発見されましたが、接合作業の結果頭・両腕・胴体の一部が残っていることがわかりました。巫女を思わせる風貌ですが、詳細は調査中です。古墳の墳丘から周濠に転落し、埋まったと推定されますが、古墳自体は中世の屋敷をつくる時、あるいはそれ以前に壊されたと考えられます。人物埴輪は秋季特別展で展示公開します。（小島）



▲ 調査位置図



B区



▲ 欲賀遺跡B・C区（一部）遺構平面図

<<<<<< **秋季特別展開催中** >>>>>> 人物埴輪

埋蔵文化財センターでは平成15年11月1日（土）～11月16日

（日）にかけて秋季特別展を開催しています。開催テーマは「まつり・いのりー古代から現代へー」です。古代から現代までの精神生活とその変遷について考えます。開館時間は午前9：00～午後4：00迄。期間中無休。多数ご見学くださるようご案内致します。